

1 阿南市の概要

阿南市は、徳島県の南東部に位置し、四国の最東端の市です。

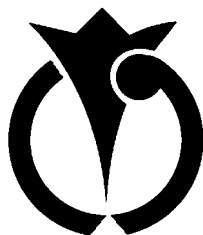
東は紀伊水道と太平洋に面し室戸阿南国立公園の東の起点になります。

西は太龍寺山・鶴林寺山によって四国山系に連なっています。

西日本第2位の高峰、剣山（標高1,955m、日本百名山）の南麓から発した那賀川が市の中心部を流れ、その豊かな水量により穀倉地帯が広がり、河口・臨海部は工業地帯となっています。

昭和29年から33年にかけて12か町村による合併、編入が行われました。平成18年には、那賀川町、羽ノ浦町を編入し、現在の市域が形成されました。

気候は温暖で、海、山、川など豊かな自然の中で海の幸、山の幸に恵まれ住環境には最適な場所です。市の人口は76,094人、世帯数26,897、東西32km南北22km、面積279.39km²です。



市章

阿南の字を“あ南”として合体図案化し、また市の地形である山あり海あり、波より昇る旭日は市の飛躍発展と市民の融和と団結を象徴しています。



市のロゴマーク

海と山の自然の中、市民が健康に満ちて、日々活動する姿を海山で表し躍動的に表現しています。



2 歴史

古代

阿南市に残る遺跡は弥生時代の銅鐸7個、前方後円墳（長径63m、後円部直径36m）をはじめとして19基の古墳が確認されています。

また、古墳時代初頭日本最古の辰砂（水銀朱）の採掘場所であった若杉山遺跡があり、そこで産出した辰砂が各地の古墳築造時に（石棺内に撒かれたり、埋葬者に塗られた）かかわって

たといわれています。

徳島県は、古来北方を粟の国、南方を長の国と呼ばれ、これらの遺跡から阿南市内のどこかが長の国の中心的場所であったのではないかと推測できます。

中世

平安時代晩期、八銚神社に神社納経としては最古(長寛元年九月廿五日)の古文書、紙本墨書二品家政所下文、紺紙金字法華経8巻が奉納されており、木造男神立像、木造大己貴命立像と共に、明治43年国の重要文化財に指定されています。

平成3年古文書閲覧のため皇太子が行啓されました。

八銚神社は、延喜式神社名帖に記載された式内小社で尊崇厚い由緒ある社です。

戦国時代、阿南市には牛岐城、桑野城、大野城など諸将が館を構えていましたが、後に四国征覇を果たした土佐の長宗我部氏の阿波侵略により攻め落とされ、その後四国を平定した豊臣秀吉は、阿波に蜂須賀氏を配し家臣の賀島氏の治めるところとなり明治まで続きました。

紀伊水道に2km余り突き出た半島に、椿泊町があります。ここはその昔、森甚五兵衛を大将とする阿波水軍の本拠「松鶴城」があり、代々蜂須賀家に仕えました。ここを拠点に、朝鮮出兵や大坂冬の陣に参戦し、その活躍は全国に知れ渡りました。江戸時代には徳島藩の海上方として参勤交代などで輸送を担当しました。

3 観光・名所・食

ひかりのまち阿南

地元の世界最大級のLEDメーカーから提供された3万個のLEDを、十数人のメンバーが仕事帰りに集まり手作業でこつこつとハンダ付けしてオブジェを作り、牛岐城公園に飾った事が発端となって光のイベントが始まりました。今では市街地の真ん中にある、リニューアルされた牛岐城公園に50万個のLEDが織りなす“光の

イリュージョン”が幻想空間へと誘います。



『牛岐城公園』

野球のまち阿南

2007年アグリあなんスタジアムの完成を機に、地域で人気の高い野球を通して地域振興や活性化を図っており、2010年4月「野球のまち推進課」設置。

西日本生涯(実年、還暦・古希)野球大会、大学野球の春・夏合宿、四国初の女子プロ野球リーグ戦等の開催誘致が実現し、野球と観光をセットにした「野球観光ツアー」で野球のまち阿南を全国へPRしています。



『アグリあなんスタジアム』

また、「野球のまち阿南」を応援するために作り上げた饅頭、商品名は「球(きゅう)」。卵の黄身と生クリーム、練乳の「あん」と杏子を使った和菓子で、さわやかな逸品です。



『饅頭 球』

蒲生田岬

四国最東端の岬、標高40メートルの灯台展望台から、晴れた日には遠く大鳴門橋、淡路島、和歌山県を望むことができます。

灯台に向かう遊歩道には中央にハート型の穴が穿たれた石のモニュメント「波の詩」高さ2.6m、幅3.4mが設置されています。

また、蒲生田海岸はアカウミガメの産卵地としても知られ、上陸数は県内トップ。現在休校中の蒲生田小学校では1954年から38年間ずっと児童がウミガメ上陸の観察を記録し、数々の賞に輝いています。現在は地元の人と、椿町中学校が活動を引き継いでいます。

阿南市ではウミガメ保護条例を公布し、保護活動に取り組んでいます。



『蒲生田岬』



『波の詩』

北の脇海水浴場

きれいな水と遠浅、広大な松原、2kmにも及ぶ砂浜、まさに「白砂青松」西日本随一の美しさを誇り、日本の渚百選になっています。



『北の脇海水浴場』

観光地引網

中林海岸では3月下旬から11月初旬までの間、1団体30名から地引網漁の体験ができ、獲れた魚をその場で料理してくれます。



『観光地引網』

太龍寺

延暦11年(792年)弘法大師の創建と伝えられる、四国霊場21番札所。標高602mの太龍寺山山頂近くに位置する寺領は樹齢数百年の巨木に覆われ、本堂、大師堂多宝塔、鐘楼門など点在し壮大なスケールは、まさに『西の高野』にふさわしい佇まいの堂宇。

かつては、阿波三大難所のひとつとされていたが、今では道の駅「鷺の里」から山門までロープウェイが通じているので眼下に広がる大パノラマを楽しみながら空中散歩気分で山上まで一直線。



『太龍寺』

明谷梅林

約5万㎡の敷地に4000本の梅が植えられ2月上旬～3月中旬の梅林祭りの頃には梅が咲き誇ります。



『明谷梅林』

岩脇公園

満開になると400mの桜の美しいトンネルになり、さくら祭りの期間は、ライトアップされファンタスティクな夜景が浮かび上がります。



『岩脇公園 桜のトンネル』



『岩脇公園 ライトアップ』

食いしん坊・農水産物

春を告げるシロウオ・筍・菜の花・蒔・春夏ニンジシ。夏の風物詩、鱧・^{はも}キュウリ・トマト・しらす。秋の実り、新米・すだち・ミカン・柚子。冬は真っ赤な鎧兜の伊勢海老。

シロウオとはハゼ科の魚でヒウオとも呼ばれています。

筍の出荷量はかつて全国一を誇ったこともありましたが、今は価格面で外国産に押され、また、後継者不足もあり減少しています。

ミカン栽培も県下有数の生産地でしたが、全国的な供給過剰とオレンジ輸入自由化で販売価格が低下、その後ハウスミカンの導入が進めら

れ「赤箱ハウスミカン」の産地として名声を獲得しています。

また、日本有数の春夏ニンジンの産地として知られています。

阿波水軍の末裔の住む椿泊町は漁業が盛んで、特産の鱧^{はも}をはじめ、タチウオや伊勢海老等たくさんの種類の魚介類に年間を通して恵まれ、県内トップの水揚げ高を誇ります。

人情豊かな漁師町は、今年4月に惜しまれながら亡くなった田中好子さんも出演した映画『奇跡の海』の舞台にもなりました。



『筍』



『赤箱ハウスミカン』



『鱧』



『伊勢海老』

4 工業

富岡港や橘港、また、那賀川の良質な工業用水を利用して臨海工業都市を目指す阿南市に、昭和34年製紙工業、38年電力会社、43年鋁工業等あいついで大型企業の立地が進みました。その後、平成5年に地元企業が青色発光ダイオード（LED）の開発に成功し一躍世界の注目を浴び、阿南市は世界最大級のLEDの生産地になりました。

また、平成12年橘湾小勝島に電力会社2社による石炭火力発電が全面運転を開始しました。



『橘湾火力発電所』

5 津波記念碑

阿南市椿町横尾の八幡神社境内に、安政地震にまつわる碑文が残されています。八幡神社の鳥居の両脇に高さ3.6mの一对の石造の常夜灯があり、そこに要約すると『1854年12月23日の

地震（東南海地震）では津波来襲に備えていたが、海は静かであった。翌日の大地震（南海地震）では、見上げるほどの津波が来て若い人はお年寄りを助け、幼い子を携えあわてて山に逃げた。津波で陸地は一面海となり流家9軒、浸水家屋18軒、水田30余町が埋没する被害をうけたが人々は無事であった。後の人に千歳不朽に伝えるようにした。』との石文が刻まれています。



『八幡神社の常夜灯』

その他、阿南市では3か所に碑文が残されており、津波のたびに大きな被害を出す地域の先人の方々が後世に、いかに伝えようかとの苦勞の賜物です。

6 消防本部の紹介

昭和40年1月7日、阿南市消防本部が発足。昭和50年4月、那賀川町、羽ノ浦町との1市2町により阿南消防組合に組織変更。

昭和51年、阿南地区が石油コンビナート等特別防災区域に指定されました。

昭和57年、南出張所を開所。

平成15年、阿南消防組合消防庁舎を阿南市辰己町1番地33で業務開始。

平成17年消防西出張所開所。これにより1消防本部1消防署2出張所の現体制となる。

平成18年3月の市町村合併により阿南市消防

本部・阿南市消防署に名称変更。

現在、消防職員103人、消防団14分団1451人。

(平成23年3月31日現在)



『阿南市消防本部』

危険物施設数

表1. 危険物施設数

種 別		施設数
製 造 所		3
貯蔵所	屋内貯蔵所	25
	屋外タンク貯蔵所	80
	屋内タンク貯蔵所	14
	地下タンク貯蔵所	68
	簡易タンク貯蔵所	1
	移動タンク貯蔵所	31
	屋外貯蔵所	5
取扱所	給油取扱所	81
	販売取扱所	2
	移送取扱所	2
	一般取扱所	77
合 計		389

石油コンビナート等特別防災区域

昭和51年に阿南市橘町幸野が、石油コンビナート等災害防止法に基づく特別防災区域に指定されました。現在第一種事業所が1社、第二種事業所が1社あります。県南の工業基地として橘湾の一部を埋立造成したもので、国道55号に隣接して、南東部に橘湾に突き出した形で広

がり、北・南・東の三方は海に面しています。

区域総面積 799,897.87㎡

区域内企業

第1種事業所

四国電力株式会社阿南発電所

第2種事業所

日本電工株式会社徳島工場

平成23年4月1日の石油貯蔵・取扱量

22万キロリットル

7 今後の市政

今後10年間のまちづくりの指針「第5次阿南市総合計画」で将来像を『ひと、まち、心をつなぐ笑顔の光流都市』とうたっています。

「幸せ」をキーワードに住みやすいまちづくりを進め、人口の定住と阿南市への移住人口の増加を目指していきます。

“自然が満喫でき、都市機能を持った、暮らしやすいまち”を標榜しています。

また、2014・15年度には、ごみ処理施設の移転、市庁舎の建て替え等大型事業が計画されています。



『新ごみ処理施設完成予想図』



『市庁舎完成予想図』

8 終わりに

3月11日の東日本大震災のテレビ映像を目の当たりにしたときは、あまりの惨状に戦慄し、やがては自然の猛威に対する、人智のなし得るところの無力さ、そして虚無感にさいなまれ、ただ呆然と眺めていました。死者、行方不明2万人の方々のご冥福と、一刻も早い復興を心よりお祈りいたします。私たちにとりましても、東海・東南海・南海の3連動による地震・津波災害が切迫しています。そのときには、残念ながら今回の映像がそのまま西日本の地において再現されることになるでしょう。この度の大きな犠牲を無駄にしないよう、残されたそう長くはない時間を市民の方々と知恵と汗を出し合い、防災・減災に向け取組んでいきたいと思えます。